

令和 3 年 6 月 29 日現在

機関番号：24505

研究種目：基盤研究(B) (一般)

研究期間：2017～2019

課題番号：17H04435

研究課題名(和文)地球規模課題の解決とパラダイムシフトをもたらす災害看護学の構築

研究課題名(英文)Evolution of Disaster Nursing for Resolving Global Issues and Leading to the Paradime Shift

研究代表者

南 裕子 (Minami, Hiroko)

神戸市看護大学・看護学部・教授

研究者番号：70094753

交付決定額(研究期間全体)：(直接経費) 14,110,000円

研究成果の概要(和文)：本研究は、2015年に国連で採択された「仙台防災枠組み2015-2030」を中心として「持続可能な開発目標SDGs」など災害看護学に密接する世界的課題について世界の看護界の取組について実態調査を行い、災害看護学の見直しと再構築を図ることを目的とした。

結果として、各国ではそれぞれの国の防災・減災に関連する課題についてはかかわりがあるが、災害看護学のリーダーではグローバルな視点が深まってないこと、防災・減災にかかわる倫理的課題が明らかになったこと、インドネシアと日本の災害時の看護実践の指針には共通なものや文化的宗教的な違いがあること、災害看護の研究優先課題が明らかになった。

研究成果の学術的意義や社会的意義

国連の「仙台防災枠組み2015-2030」や「持続可能な開発目標」などは災害看護学分野の貢献が期待されているので、この成果をもとに国内外の災害看護学会や専門職団体などにおいて改善点や課題について提案するとともに、優先的に研究すべき事項について研究者間で共有し、社会のステークホルダーとの連携を深めてよりよい減災・防災の体制づくりを促進することができる契機となる。

また災害関連の倫理的課題はまだ不明なところが多いので、この文献研究を基盤にさらなる探求が求められる。

研究成果の概要(英文)：This study was to explore how leaders of field of disaster nursing in the world are conscious of global agendas like Sendai Framework of Disaster Reduction and Sustainable Development Goals.

The results showed that1)Leaders were aware of own country issues but2) many of them were not acting on the global recommendations,3) ethical issues regarding disaster nursing were explored, 4) indicators of good practice on nursing practice were compared with the indicators developed in Indonesia and 5) priority of future research topics in the field of disaster nursing were identified.

研究分野：災害看護学

キーワード：防災・減災 グローバル・アジェンダ 災害看護実践 災害倫理 デルファイ・スタディ

## 様式 C - 19、F - 19 - 1、Z - 19 (共通)

### 1. 研究開始当初の背景

2015年には国連は「仙台防災枠組み 2015-2030」および「持続可能な開発目標」、「COP21」等を発表し、世界的規模で健康格差の課題、大規模災害、世界の気候変動・温暖化等への対策が示された。

一方、看護界では Florence Nightingale 生誕 200 周年を記念して「Nursing Now」の標ぼうし、世界の各国における看護データと看護の現在の成果を収集しているところである。このようなグローバル・アジェンダに対して災害看護学はどのように対応すべきかが問われていた。

### 2. 研究の目的

「地球規模課題の解決とパラダイムシフトをもたらす災害看護学の構築」を目的として具体的目的は下記のとおりである。

- (1) 災害看護現場における good practice の事例の国際比較をおこなう。
- (2) 世界の災害看護学リーダーのグローバル・アジェンダの認識と対策の実態を把握する。
- (3) 災害各期に直面する倫理的課題を明らかにする。
- (4) 災害看護学研究者による近未来の優先研究課題を明らかにする。
- (5) 研究成果を公表するためのプラットフォームを作成する。

### 3. 研究の方法

- (1) 目的 1 については東日本大震災直後の看護職の記録分析をもとに、インドネシアの共同研究者と good practice の指針の比較検討を行う
- (2) 目的 2 のために対面・Zoom を活用したリーダーのインタビューを行う。
- (3) 目的 3 のために減災・防災に関連する倫理的課題を文献レビューする。
- (4) 災害看護研究者に対してデルファイ調査を行う。

### 4. 研究成果

(1) インドネシア大学災害看護研究チームが健康のための災害リスクや管理の看護記述の作成過程で抽出した指標が、東日本大震災における看護実践にも適応できるかどうかを検討するため、日本看護協会が出版した「ナース発東日本大震災レポート」(2011) に収録されている 117 ファイルのうち、災害リスク管理に係る看護実践が具体的に記述されている 111 ファイルを分析対象として、看護実践の抽出及びカテゴリー化を行った。

結果、抽出された看護実践は 496 件であり、55 のカテゴリーが抽出された。このうち、約 9 割がインドネシア版災害リスク管理指標に該当していた。指標の<メンタルヘルスと身体的ケアを統合した有能なヘルスケア/看護ケア(ソフトスキルを含む)を提供する>に該当する、東日本大震災における看護実践が最も多く抽出された。

サブカテゴリーとして、「チームの一員として医療活動を行う」「こころのケアを行う」「要介護者・要配慮者を含む避難者の生活支援を行う」などが項目としてあげられた。また、指標に該当しなかったカテゴリーは、<死者および遺族のケア>と<ケア提供者へのケア>であった。

両国に特有な看護実践はあるものの、概ね「健康のための災害リスク管理」の指標に該当しており、日本においても適用可能であることが示唆された。

(2) 災害看護に関係したグローバル・アジェンダに関する看護リーダーの認識を明らかにし、課題を探求することであった。

研究デザインは、質的記述的研究であった。研究対象者は、災害看護に関連する国際学会会長や、国際機関や教育機関に所属し災害看護に携わっている災害看護リーダーであり、半構成的面接によりデータ収集を行った。高知県立大学研究倫理委員会の審査を受け、承認を得て実施した(看研倫 18-49)。

研究結果を下記に示す。研究協力者は 11 名であり、協力者の出身国はアメリカ 3 名、ドイツ 1 名、イギリス 1 名、韓国 2 名、マレーシア 1 名、タイ 1 名、台湾 1 名、インドネシア 1 名であった。看護リーダーたちは、看護師にはグローバル・アジェンダに関与する/できる役割や機能があると認識していた。加えて、ヘルスワークフォースの中で最大規模を占めている看護職がグローバル・アジェンダに関与することにより、影響を与え得る可能性を認識していた。また、地球の未来を守るために、各国の看護職が共通課題をもつことは必要であると認識していた。ただし、国連仙台防災枠組み(Sendai Framework for Disaster Risk Reduction: SFDRR)が利用できるかどうかは、各国の既存の体制が基盤となることや、枠組が実用的、かつ柔軟でなければならないと述べていた。SFDRR を自国の災害看護の枠組に活用しているのは 1 カ国のみで、その他は「聞いたことがある程度」あるいは「馴染みがない」と述べていた。

災害看護に関連するグローバル・アジェンダの課題については、看護としての目標を焦点化して取り組むなど、戦略的に取り組むことが必要であるという意見があった。さらに、政策の意思決

定につなげていくために、看護の実践を通して、エビデンスを提供していくことが挙げられた。また、他職種の動きを理解したり、他職種の人々に看護がしていることを知らせたりする必要性、あるいはグローバルに活動する看護職には、異文化圏の人々を保護するために、他の国や組織の文脈のなかで協力することが必要であることなどが述べられた。

自国における災害看護の課題については、災害時のニーズに即した看護業務や人材育成に関する規程や制度のあり方を検討すること、災害看護実践力を強化すること、テクノロジーを活用すること、災害看護に関する知識を共有する体制をつくることなどが挙げられた。

災害に特化したグローバル・アジェンダである SFDRR は、災害看護に関与しているリーダーでさえにも知られていないことから、普及させていく必要がある。2015 年に同時採択された SDGs に重複するところも多くあり、枠組の関連性については検討されてきている。最大限の成果を生み出すには、主要機関のパートナーシップを促進する必要があり、そのためにも、看護分野がどのように貢献できるかを明らかにするとともに、既に取り組んでいるベストプラクティスを示しつつ、普及させていく必要がある。

(3) 災害看護学として検討が必要な災害の看護活動における重点的な倫理的課題について 4 つの側面に分け、国内外の先行研究にて検討した。さらに、検討結果から政策提言に向けた方向性について検討した。

災害時の看護活動における倫理的課題の文献検討では 21 件と書籍 3 冊より、災害時の看護実践は急性期の刻々と変化する状況の中で最善の方策を判断するため自らの職務を超えて実践する現状が明らかとなった。

また、災害時の看護活動が法的に脅かされる状況については、アメリカでは医療職の保護を目的とした「善きサマリア人の法」があるが、本邦において、民法、保健師助産師看護師法等における職務上の責任の不明確さ、過失時の責任の所在等の明確な規定はなく法整備の必要性が課題である。

資源配分に関する倫理的側面は、全国の指定避難所における備蓄品の検討・管理に関する課題があるとともに、発災後には、避難所による支援物資の地域格差や避難所での物資の配分における平等性の課題が明らかとなった。

災害後の病院避難時のトリアージにおいては、看護職が所属する病院で被災した場合、トリアージに関わった当事者の葛藤が大きく、トリアージに関する規定を明確にする必要性が示された。

#### (4) 災害看護学の優先課題の特定

災害看護研究の優先課題については 2010 年にデルファイ調査を行っていたが、その後の研究がどの分野でどの程度行われていたかの文献調査を行い、それを参考にして 2018 年に再度災害看護研究の必要性と緊急性についてデルファイ調査を行った。その結果を 2010 年度の調査と比較研究を行った。

文献は、医中誌 web を用いて、神原他 (2010) のデルファイ調査により抽出された「備え」「連携システム」「要支援者支援」「メンタルヘルス」「災害サイクル」「特殊・多発災害」「国際」「災害看護学構築」の 8 研究領域において、該当論文が発表された 1987 年から神原他 (2010) の研究が実施された 2010 年と、2011 年から 2018 年の看護文献を調査した。検索方法は 8 つの研究領域 and 災害とし、会議録は除外した。該当した 1990 例の文献を比較検討し、内容分析を行った。文献引用時には出典の明記を徹底し著者の意図や意味が損なわれないように努めた。

2018 年 11 月から 2019 年 3 月までの間、100 人の災害看護研究者を対象として 3 回のデルファイ調査を行った。得られた結果を、“非常にそう思う”と“そう思う”の得点の比率を合計し 95% を越えた研究課題を、優先度の高い研究課題としてまとめた。95% を越えた研究課題は、【災害リスク】1 項目、【要配慮者支援】5 項目、【連携システム】2 項目、【災害看護活動】1 項目、【災害時の看護役割】1 項目、【災害看護学構築】5 項目からなる、15 項目であった。この結果を災害看護学関連学会で周知するとともに、優先課題への財源確保の対策を立てる必要がある。

#### (5) 研究成果の公開

この研究成果は研究目的にあるように研究成果を公開するプラットフォーム <https://www.dngh.info/> を作成中で公開予定である。また、パブリックペーパーとして公開中のものとこれから公開していく。国内外の主な学術雑誌(査読あり)および学会等にも未発表のものを投稿し、公開する準備中である。さらに看護界はもとより市民に対しても研究成果をもとに講演や冊子作りを行う計画である。

## 5. 主な発表論文等

〔雑誌論文〕 計6件（うち査読付論文 6件/うち国際共著 4件/うちオープンアクセス 6件）

1. 著者名 Ngatu NR, Muzembo BA, Choomplang N, Kanbara S, Wumba R, Ikeda M, Mbelambela EP, Muchanga SM, Suzuki T, Wada K, Al Mahfuz H, Sugishita T, Miyazaki H, Ikeda S, Hirao T	4. 巻 20
2. 論文標題 Malaria rapid diagnostic test (HRP2/pLDH) positivity, incidence, care accessibility and impact of community WASH Action programme in DR Congo: mixed method study involving 625 households	5. 発行年 2021年
3. 雑誌名 Malaria journal	6. 最初と最後の頁 117
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスとしている (また、その予定である)	国際共著 該当する
1. 著者名 神原咲子	4. 巻 895
2. 論文標題 コロナ禍からみる災害対策	5. 発行年 2021年
3. 雑誌名 河川	6. 最初と最後の頁 12-16
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスとしている (また、その予定である)	国際共著 -
1. 著者名 Hastoro Dwinantoaji, Sakiko Kanbara, Mari Kinoshita, Satoru Yamada, Hasti Widiasamratri, Mila Karmilah	4. 巻 7
2. 論文標題 Factors related to intentions among Community Health Cadres to participate in Flood disaster risk reduction in Semarang, Indonesia	5. 発行年 2021年
3. 雑誌名 European Journal of Molecular & Clinical Medicine	6. 最初と最後の頁 1046-1063
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスとしている (また、その予定である)	国際共著 該当する
1. 著者名 Ebi, K.L, Harris, F, Sioen, G.B, Wannous, C, Anyamba, A B, P Boeckmann, M, Bowen, K, Ciss, G, Dasgupta, P, Dida, G.O, Gasparatos, A, Gatzweiler, F, Javadi, F, Kanbara, S, Kone, B, Maycock, B, Morse, A, Murakami, T, Mustapha, A, Pongsiri, M, Suzn, G, Watanabe, C, Capon, A	4. 巻 17
2. 論文標題 Transdisciplinary Research Priorities for Human and Planetary Health in the Context of the 2030 Agenda for Sustainable Development	5. 発行年 2020年
3. 雑誌名 International Journal of Environmental Research and Public Health	6. 最初と最後の頁 8890
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) 10.3390/ijerph17238890	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスとしている (また、その予定である)	国際共著 該当する

1. 著者名 古屋 好美、小坂 健、寺谷 俊康、和田 耕治、久保 慶祐、神原 咲子、中瀬 克己、武村 真治、長谷川 学、富尾 淳、片岡 克己、佐藤 修一、永田 高志、久保 達彦	4. 巻 67
2. 論文標題 わが国における健康危機管理の実務の現状と課題：公衆衛生モニタリング・レポート委員会活動報告	5. 発行年 2020年
3. 雑誌名 日本公衆衛生雑誌	6. 最初と最後の頁 493～500
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) 10.11236/jph.67.8_493	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスとしている(また、その予定である)	国際共著 -

1. 著者名 Naruse Kazuko, Sugimoto Keiko, Yanagisawa Satoko, Kanbara Sakiko, Kondo Mari, Kondo Akiko, Tashiro Junko, Minami Hiroko, Nakayama Yoko	4. 巻 39
2. 論文標題 Current Status of the Globalization in Nursing Graduate Schools in Japan	5. 発行年 2019年
3. 雑誌名 Journal of Japan Academy of Nursing Science	6. 最初と最後の頁 254～260
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) 10.5630/jans.39.254	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスとしている(また、その予定である)	国際共著 該当する

[学会発表] 計5件(うち招待講演 3件/うち国際学会 1件)

1. 発表者名 Chikoto Suzuki
2. 発表標題 Nursing practice and ethical issues during disasters in an out-or-hospital context
3. 学会等名 International Nursing Research Conference of World Academy of Nursing Science (国際学会)
4. 発表年 2020年

1. 発表者名 Sakiko Kanbara
2. 発表標題 Disaster Nursing and Rethinking Primary Health Care on COVID-19
3. 学会等名 Disaster Nursing Science Researcher Society of Malaysia (招待講演)
4. 発表年 2021年

1. 発表者名 神原咲子
2. 発表標題 災害と看護のいま
3. 学会等名 名古屋大学防災アカデミー（招待講演）
4. 発表年 2021年

1. 発表者名 神原咲子
2. 発表標題 災害復興に実装される看護科学
3. 学会等名 第40回日本看護科学学会学術州愛（招待講演）
4. 発表年 2020年

1. 発表者名 渡邊聡子, 藤井愛海, 小澤若菜, 中山洋子, 南裕子
2. 発表標題 インドネシアで開発された「健康のための災害リスク」管理に関する指標の適用可能性の検討
3. 学会等名 日本災害看護学会
4. 発表年 2020年

〔図書〕 計2件

1. 著者名 Dwinantoaji H, Kanbara S, Widyasamratri H, Karmilah M	4. 発行年 2020年
2. 出版社 Springer International Publishing	5. 総ページ数 357
3. 書名 Community-Based Climate Change Adaptation Strategies in Primary Health Care (PHC): A Case Study of Semarang, Indonesia.	

1. 著者名 Sakiko Kanbara, Apsara Pandey, R.Maria E Esuture, Hyon Ju Lee, Hiroyuki Miyazaki EpiNurse,	4. 発行年 2020年
2. 出版社 Springer Singapore	5. 総ページ数 343
3. 書名 Health Monitoring by Local Nurses on Nepal Earth Quake 2015	

〔産業財産権〕

〔その他〕

-

6. 研究組織

	氏名 (ローマ字氏名) (研究者番号)	所属研究機関・部局・職 (機関番号)	備考
研究分担者	片田 範子  (KATADA Noriko)  (80152677)	関西医科大学・看護学部・教授   (34417)	
研究分担者	山本 あい子  (YAMAMOTO Aiko)  (80182608)	四天王寺大学・看護学部・教授   (34420)	
研究分担者	神原 咲子  (KANBARA Sakiko)  (90438268)	高知県立大学・看護学部・教授   (26401)	

	氏名 (ローマ字氏名) (研究者番号)	所属研究機関・部局・職 (機関番号)	備考
研究協力者	藤井 愛海  (FUJII Megumi)	日本赤十字豊田看護大学・看護学部・講師   (33941)	
研究協力者	中島 麻紀  (NAKAJIMA Maki)	名古屋大学・医学部保健学科・助教   (13901)	

## 6. 研究組織（つづき）

	氏名 (ローマ字氏名) (研究者番号)	所属研究機関・部局・職 (機関番号)	備考
研究協力者	宮前 繁  (MIYAME Shigeru)	東京医科歯科大学付属病院	
研究協力者	鈴木 千琴  (SUZUKI Chikoto)	関西医科大学・看護学研究科・博士後期課程院生  (34417)	
研究協力者	原 朱美  (HARA Akemi)	関西医科大学・看護学部・講師  (34417)	
研究協力者	田中 香苗  (TANAKA Kanae)	聖路加国際大学・看護学部・助教  (32633)	
連携研究者	中山 洋子  (NAKAYAMA Yoko)  (60180444)	高知県立大学・看護学部・研究員  (26401)	
連携研究者	渡邊 聡子  (WATANABE Satoko)  (00382268)	高知県立大学・看護学部・准教授  (26401)	
連携研究者	小澤 若菜  (OZAWA WakanWakana)  (90584334)	高知県立大学・看護学部・講師  (26401)	
連携研究者	三浦 英恵  (MIURA Hanae)  (40588860)	日本赤十字看護大学・看護学部・教授  (32693)	



7. 科研費を使用して開催した国際研究集会

〔国際研究集会〕 計0件

8. 本研究に関連して実施した国際共同研究の実施状況

共同研究相手国	相手方研究機関
---------	---------